

# マーストリヒト大学の英語による授業

## 基本情報 ( ) 内は外国人数 \*2008 年度 QS Top Universities より

教員： 1,885 人 (566 人) FTE:1,619 人 (331 人)

学部学生： 9,626 人 (3,993 人) FTE:9,601 人 (3,993 人)

大学院学生： 3,491 人 (1,125 人) FTE:3,395 人 (1,125 人)

学部・研究科： Arts and Social Sciences、Economics and Business Administration、Health, Medicine and Life Science、Humanities and Sciences、Psychology and Neurosciences、Law という 6 分野の学部とそれに対応する大学院および専門職大学院。

外国人学生： 学生の出身国別のデータは非開示だが、以下の国の志願者向けに奨学金や卒業後の進路などの情報をウェブ上の大学公式サイトで提供しており、これらの国から多くの学生が留学していると考えられる。(ヨーロッパ) ベルギー、ドイツ、ポーランド、英国 (アジア) 中国、インド、インドネシア、トルコ、ベトナム

## 1. はじめに

マーストリヒト大学は 1976 年創立というオランダで 2 番目に新しい総合大学であるが、タイム紙で 2007 年、2008 年ともに 111 位に番付されるなど国際的な評価は高い。オランダの経済紙 Financieel Dagblad の特集「オランダ教育の国際化 2007」によると、2002 年にはオランダで学位を取ろうとしたドイツ人が 5,000 人だったのに対し、2007 年には急増して 16,000 人。一方、ドイツで学位を取ろうというオランダ人はここ数年 1,700 人で横ばいとなっている。ドイツでは授業の多くがドイツ語で行われるがオランダでは英語で受けられることがその大きな要因であると言われる<sup>1</sup>。オランダのなかでもマーストリヒト大学では、学部課程の 50% および大学院課程のほとんどが英語でなされ、ドイツ人のみならず EU 諸国そしてアジアからも多くの留学生が学び、学長は学生の国際化により大学のレベルが上がったと述べている<sup>2</sup>。英語で授業が受けられれば留学生にとって魅力のある大学となるのか。マーストリヒト大学が留学生を惹きつける理由について調べた。

## 2. 「ヨーロッパのマーストリヒト」

マーストリヒト大学はオランダの医師不足を解消する目的で 1960 年代から設立が準備されたが、皮肉にも 1970 年代初頭には医師不足が解消されたために大学の認可がおりず、非公式に医学プログラムを 1974 年に開始するという形でスタートした（その後認可が下り、1976 年 1 月に正式に創

<sup>1</sup>オランダ人は概して英語力が高く、TOEFL2004-05 のデータではオランダ語を母語にする人たちの平均スコアは 262 という高得点である。「ヨーロッパの言語」として英語が捉えられ、英語が授業だけではなく、街中でも「公用語」として機能している。

<sup>2</sup> <http://www.portfolio.nl/news/nl/show/2159> 「マーストリヒト付近の学生が同大学に入れずティルブルグの学校に行かねばならない、などという不都合が生じている」という地元の批判もある。

立)。そして、1993年にマーストリヒト条約が発効されると、同条約発祥の地としてEUの理念を鑑みながら、同大学はオランダよりもヨーロッパ全体を視野に入れたプログラムを揃え、「ヨーロッパの大学」としての発展を目指した。

また、この「ヨーロッパのマーストリヒト」という位置付けは、大学だけではなく市全体にも影響を及ぼし、多くの侵略された歴史を持つマーストリヒトは、現在では人種差別のない国際的な街として名を博し、「外国人にとって住みやすい街」と言われるに至っている。

### 3. 問題発見解決型学習（Problem-based learning: PBL）<sup>3</sup>と英語による授業

6学部・約1,200人の学生を有するマーストリヒト大学は、「問題発見解決型学習（PBL）」という学習者中心主義の教授法を採用し、学生の独立心と問題を発見し解決するという力を養っているとオランダ国内外から高い評価を受けている。PBLは「教師から一方的に知識を伝えられて記憶するのではなく、自らが自発的にどのような技術が必要かを考え、実践していく」（井上 2005）という教授法である。日本では三重大学が積極的に採用している。

また、英語による授業はマーストリヒト大学の教育戦略となっている。EU統合とグローバル化により、卒業生がもはやオランダ国内だけではなく、ヨーロッパ中、いや、世界中で就業するようになってきたためである。

マーストリヒト大学の各プログラムは学際的な学び（interdisciplinary learning）を強化するように設計されており、学術的理論と応用的実践能力を融合させる工夫がなされている。PBLの実践にあたっては、すべての授業を12名以内のクラス編成とし、学生を主体とする授業が展開される。このPBLによる授業はミーティング（meeting）とも呼ばれ、教師主体の講義ではなく、学生たちが論争・争点（issue）の根底に何が問題（problem）としてあるのかを探しだし、ほかの学生と議論・意見交換をしながら論争・争点の構造を理解し、問題解決の方向を見つけるというものである。

ケーススタディとしての具体的な論争・争点（issue）が与えられた学生たちは、週に2回各2時間のミーティングに出席しながら、6～8週間かけてその解決方法を模索していく。ミーティングでは、個人または少人数のグループで論文等の資料を読むなどの作業で得られた知見を共有し、意見交換をしながら問題の根底を明らかにし、解決への方向を求めながら論争・争点への理解を深めていく。

### 4. 職能教育と情報通信技術

オランダでは職能教育が盛んである。職務遂行に必要な不可欠な知識及び技能等を身につけることが、大学教育においても重視されている。マーストリヒト大学では、職場で必要とされる実際的な能力と大学で学ぶ内容にギャップがないように注意を払い、抽象的で理論的な問題と実際的な問題の両方を課題とした授業を行っている。

---

<sup>3</sup> 「問題発見解決型学習」という和訳は三重大学（文末参照）を参照した。

「情報へのアクセス能力」「チーム間で情報を共有する能力」「議論をする能力」の育成が PBL の目指すところであるが、これを実現するには先端的情報通信技術の応用が問われる。マーストリヒト大学は情報通信技術 (ICT) を貪欲に取り入れ、1994 年には PBL カリキュラム改善の一環として、ICT の活用検証を開始した。その後、ウェブベースの科目を試験的に開講し、学生や教職員に対してユーザー調査をしながら改良を進め、1997 年には POLARIS と呼ばれるグループウェアアプリケーション開発を学内で開始した。そして、2000 年にはオンライン教育へと展開させ、現在では e ラーニングのプログラムを設けている。

特に、MBA プログラムでは e ラーニングを活用している。オランダ語モジュール (Dutch Modular MBA) と国際モジュール (International Modular MBA) という e ラーニング利用した 2 つのパートタイムコース<sup>4</sup>では EU 各国の学生が仕事を辞めることなく自国に住みながら、短期のマーストリヒト滞在 (または通学) により学位が取得できる。国際モジュールコースは国際色にあふれており、学生は e ラーニングと通学のクラスとの組合せを通して様々なビジネス・バックグラウンドを有するクラスメートとの交流が経験できるようになっている。両プログラムに進むには 5 年以上の就業経験が求められ、修学期間は 2 年から 5 年となる。

また、ユーロ MBA という他のヨーロッパ 5 大学と合同の MBA プログラムもある。このプログラムも e ラーニングを活用し、EU 圏外も含めた世界各国から学生が集まるフルタイムの 2 年間プログラムだが、就業経験は求められない。

## 5. 英語を母語としない外国人学生のための英語教育の特徴

マーストリヒト大学では、英語を母語としない外国人学生向け英語教育としては以下の 2 つのプログラムがある。

### (1) Pre-Academic Training (PAT)

修士課程に必要なアカデミック英語が不足している外国人学生を対象とする。オランダ人の学生は前述のように既に十分な英語力を有しているため、このプログラムには所属していないようである。このプログラムはヨーロッパ研究センター (Center for European Studies: CES) が主催し、参加条件として、学士取得と TOEFL もしくは IELTS の一定レベル以上のスコアを求めている。以下の内容で 4 月末開始の 4 ヶ月コースと 7 月末開始の 4 週間コースがある。それぞれ、英国の大学のファウンデーション・プログラムとプレセッション・プログラムに近いといえよう。

- ① 4 月開始 4 ヶ月コース : 263 時間 (\*「時間」とは授業時間をさし、1 授業時間が何分かは不明)
  - ・ 一般英語と英語試験 (IELTS など) 準備 (142 時間)
  - ・ 英語個人レッスン (5 時間)

---

<sup>4</sup> EU 以外の学生が留学生としてこのプログラムに参加できるかは不明。

- ・ アカデミックライティング (28 時間)
- ・ プレゼンテーションスキル (20 時間)
- ・ 研究スキル (20 時間)
- ・ コンピュータースキル ; ワード、エクセル、パワーポイント、アクセスおよびフロントページ (20 時間)
- ・ 文化間コミュニケーション (28 時間) 米国からの学部留学生とグループを組んだ授業。

## ② 7 月開始 4 週間コース : 69 時間

- ・ 一般英語 (8 時間)
- ・ プライベートレッスン (5 時間)
- ・ アカデミックライティング (24 時間)
- ・ プレゼンテーションスキル (16 時間)
- ・ 研究スキル (16 時間)

なお、明治学院大学は同センターと提携して夏期短期集中プログラムに学生を派遣している。

## (2) 語学センター (The Language Centre) の短期プログラム

マーストリヒト大学は、語学センターを学部間機関 (inter-faculty institute) として位置づけ、語学センターが提供する英語プログラムではアカデミックおよび専門職で必要とされる英語力の習得に焦点を定めている。短期プログラムとしては、週 1 回授業の 8 週間から 12 週間のものがある。具体的には、ケンブリッジ英語検定準備、スピーキング・コミュニケーション能力向上、英語による授業の補習のためのクラスのほか、医療・人間科学専攻の修士学生を対象とした専門英語クラスがある。博士課程の学生を対象にしたアカデミックライティングやプレゼンテーションスキルの個人指導のプログラムも設けている。また、このほかにも語学センターでは学生のみならず教員や職員、そして大学関係者以外の社会人を対象に、個人指導で英語を教えたり、翻訳サービスを提供したりしている。

## 6. まとめ

創立後約 30 年という短期間でマーストリヒト大学が留学生にとって魅力的な大学となった背景には、(1) 英語による授業、(2) 問題発見解決型学習 (PBL) という学生主体の教授法、(3) 最新の情報通信技術を活用した仕事環境への接点が高いプログラム、(4) 街中で英語が通じ、外国人に対する偏見が薄い国際都市としての位置をマーストリヒトが確立したこと、の 4 点が挙げられる。

英語については、オランダ人は英語が上手いとはいえ、彼らにとっても英語は母語ではないため、英語を母語としない外国人学生は「完璧な英語を話さなくてはいけない」というプレッシャーに臆

することなく必要な英語を様々な場面で使用しながら英語力をつけていく。さらに、問題発見解決型学習により英語コミュニケーション能力を一層伸ばしていく。職能教育に目を向けた授業内容は、卒業後の社会・仕事に対して具体的な視野を留学生にも提供する。

以上のことから、マーストリヒト大学における英語による授業は、留学生を集めるための戦略ではあるが、それを有効に働かせる教授法、インフラ、職業社会との接点、そして街の歴史と文化によってその戦略が支えられているといえよう。前述のタイム紙ランキングではマーストリヒト大学に対する留学生からの評価は高く、フィナンシャルタイム紙によるマーストリヒト大学のビジネスやファイナンス修士修了者に対する実業界からの評価も高い。EU 圏以外の同大学卒業生の評価については未だ資料に乏しく、今後継続的な情報収集を図りたい。

## 参考文献

フィナンシャルタイムズ・ウェブサイト 2009 年 8 月 4 日検索

<http://rankings.ft.com/businessschoolrankings/masters-in-management>

井上明, 2005, 「PBL (Problem-Based Learning) による問題発見解決型情報教育」『IT 活用教育方法研究第』8 巻第 1 号, 私立大学情報教育協会。

[http://www.juce.jp/archives/ronbun\\_2005/09.pdf](http://www.juce.jp/archives/ronbun_2005/09.pdf)

マーストリヒト大学・ウェブサイト 2009 年 8 月 4 日検索

<http://www.maastrichtuniversity.nl/web/Home.htm>

三重大学高等教育創造開発センター, 2007, 『三重大学版 Problem-based Learning 実践マニュアル——事例シナリオを用いた P B L の実践——』。

<http://www.hedc.mie-u.ac.jp/pdf/pblmanual.pdf>

QS Top Grad School – QS Top MBA – QS Global Workplace・ウェブサイト 2009 年 8 月 4 日検索

[http://www.topuniversities.com/schools/data/school\\_profile/default/maastrichtuniversity](http://www.topuniversities.com/schools/data/school_profile/default/maastrichtuniversity)